



# しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

## もくじ

- 「伊良湖村移転」の歴史……………2ページ
- 広報サポーター募集……………3ページ
- 地域の話題（亀山校区）……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

## 「伊良湖村移転」の歴史

風光明媚な景勝地として知られる伊良湖岬。その昔、伊良湖の集落が全村移転したのを、皆さんはご存知ですか？今回は、地区の方から聞いた移転の歴史についてご紹介します。



### 半年間で全村移転へ

1905年（明治38年）当時の伊良湖集落は、現在の伊良湖シーパーク&スパから伊良湖シーサイドゴルフ倶楽部周辺にありました。当時の戸数は112戸、人口729人で、半農半漁の暮らしをしていました。

この年の9月、陸軍から伊良湖の土地を収用するという通告があり、半年以内に集落全ての家を移転するようにとの命令が届きました。これは伊良湖射場（小中山町）の拡大に伴う用地買収によるものでした。戦時下における軍の力は絶大で、伊良湖集落の方たちは、現在の伊良湖集

落までレールを引き、トロッコで荷物を運び移転を始めました。そして1906年（明治39年）3月、全ての家の移転が完了しました。

### 伊良湖射場とは

伊良湖射場の正式名称は「陸軍技術研究所伊良湖試験場」で、現在の小中山町の田戸神社付近にありました。これは当時の日本陸軍の大砲の実射試験場で、使用する大砲や弾薬のほとんどが、ここで試験検査を受けて、戦地へと配備されたのです。それでは、なぜこの場所に伊良湖射場が造られたのでしょうか。考えられている理由は、3つあります。

- 大砲の射幅10kmが確保できたこと
- 地形が平らで、弾が飛んでいく様子がよく見えたこと
- 家が少なく用地取得がしやすかったこと

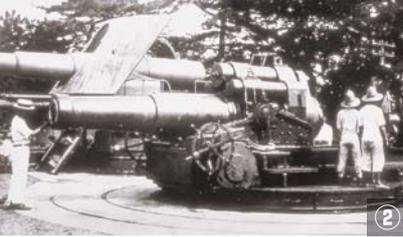
1901年（明治34年）、小中山地区（西山の一部が射場用地となり、1905年（明治38年）には用

地拡大のため西山（伊良湖地区が軍用地として買収されました。

### 今なお残る戦争遺跡

伊良湖射場の施設で、現在も残っているものは32個あります。日出園地下に残る外浜観測所もその一つですが、多くは小中山町に残されています。最も象徴的なものは、地元の方から通称「六階建」と呼ばれている気象観測兼展望塔跡です。この塔では、気象条件などを観測したり、大砲の弾の軌道などを確認したりしていました。

皆さんも、残された戦争遺跡を見て、全村移転をした伊良湖の人々に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



②



③



①

- ① 日出園地（日出砲台跡）からの眺め
  - ② 実際に使用されていた大砲
  - ③ 昭和初期ごろの気象観測兼展望塔（右）と無線電信所（左）
- ※現在でもその姿を見ることができます



▲外浜観測所（日出園地下）宮山と小山の間を越えて飛んできた砲弾を観測した施設